

◆**学校名** 富田林市立彼方小学校, 富田林市立寺池台小学校, 松原市立三宅小学校, 柏原市立玉手小学校

◆**主題名** 命あるものを大切に **道徳の内容** D—生命の尊さ

◆**ねらい**

- ・生命の尊さを感じ、生命あるものを大切にする態度を育てる。

◎**中心的な発問**

ロバを見送ったあと、アドルフたちは、どんなことを話したのでしょうか。

◆**本時の展開**

	学習活動	発問と予想される子どもの反応	指導上の留意点及び評価
導入	◎ヒキガエルの写真を見て、イメージを持つ。	<p>ヒキガエルをみて、どう思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つかまえる。</li> <li>・気持ち悪い。</li> <li>・どこかへ行ってほしい。</li> <li>・見たくない。</li> <li>・石をぶつける。</li> <li>・逃げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○素直な気持ちを表現させる。</li> <li>○「もしも、ヒキガエルがとび出してきたらどうしますか。」と補助発問をし、具体的にイメージさせる。</li> </ul>
展開	◎資料を読んで、アドルフたちの行動とロバがしたことについて考える。	<p>アドルフたちは、ヒキガエルに石を投げていたとき、どんなことを考えていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ち悪い。</li> <li>・おもしろい。</li> <li>・当たったら気持ちいい。</li> </ul> <p>荷車にひかれそうなヒキガエルを見て、アドルフはどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひかれてしまえ。</li> <li>・どうなるかな。</li> <li>・おもしろいな。</li> </ul> <p>ロバを見送ったあと、アドルフたちは、どんなことをはなしたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロバは、ヒキガエルを守ろうと命がけでがんばったのに、ぼくたちはなんていうことをしてしまったのだろう。</li> <li>・小さな命も大切にするロバはすごいなあ。</li> <li>・ぼくたちもロバみたいに命を大切にしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生き物の命をないがしろにする様子をおさえる。</li> <li>○簡単な答えの場合は理由を引き出し、深める。</li> </ul> <p>&lt;評価&gt; 生命の尊重した考えに共感できたかどうか。</p>

<b>終 末</b>	◎詩を読む。 ◎感想を書く。	・詩「生きているって・・・」を読む。	○ワークシート
----------------	-------------------	--------------------	---------

**【評価方法】**

- ・ワークシートから変容をよみとる。
- ・ワークシート①は本時の前に生き物（ヒキガエル）についてのものを活用する。
- ・ワークシート②は本時の中心発問やまとめの部分を活用する。

**【評価の観点】**

- ・アドルフたちの心情を考えることを通して生命の尊さを感じ取れているか。
- ・共感的理解を大切にす。

どんな命も大切だと考えている（道徳的心情）

生命あるものを大切にしたいと考えている。（道徳的判断力）

どんな生き物でも今よりもっと大切にしたいと思っている。（道徳的実践意欲・態度）

**【評価場面】**

- ・ワークシート
- ・授業の中での発言やつぶやき。
- ・普段の行動。

**【めざす子ども像】**

- ・身の回りの小動物に対しても生命の大切さを考えられる子ども。

## ◆研究のまとめ

### ○授業実践についてチームとしてのまとめ

#### ○チームとしての主な成果

- ・事前にアンケートをとることから、普段の考えをある程度つかむことができ、授業の評価を行う上での判断材料の一つになった。
- ・主人公になりきり、考えることができた児童が多数いた。
- ・事前と事後に「いのち」についてマッピングさせることで、児童の「いのち」に対する考えの広がりや深まりをキャッチすることができた。

#### ○改善策

- ・主発問「ロバを見送ったあと、アドルフたちは、どんなことを話したでしょうか」としてしたが、「アドルフの手から、石が足元に静かにすべり落ちた。」というところに焦点を当て、考える活動の必要性を感じた。
- ・事前や、授業内などにアンケートを取り、その結果を授業の評価の判断材料の1つとしたが、1つの授業の中だけでは変容を比較するのは困難だと感じられた。道徳の時間だけでなく、学校生活全体で捉える必要があるように感じられた。

#### ○共通して見えてきたこと

- ・ワークシートでの評価の際、考えることはできても、文章として記入が難しい児童への対応や、心の中で感じたことを素直に文字にできない児童の内面の評価の難しさが明らかとなった。
- ・文章として書けない児童への対応として、マッピングなどを用い、単語で記入させることも1つの方策ではないかと考える。

### ○道徳の評価についての提言

事前に生命に対する考えを聞くアンケートをとったり、導入時にヒキガエルに対するイメージを聞いたりしたあと、本時の授業を通してどんな思いや考えを持ったかを書かせることによって、1時間の授業の中での児童の変容を見ることができた。初めは、「気持ち悪い」などの見た目の印象書いた児童が多かったが、この教材を通して、「小さな命でも大切になんだ。」「小さな命を助けたロバのようにならないといけない」など、自分なりの表現を通して、価値について考えたと思われる。また主人公の道徳的心情の変化があったところに気づきにくい児童もいるので、そこを丁寧に伝わるように意識すると、本時で扱う道徳的価値に沿った考えが引き出せた。

取り組みの中で見えてきた課題は、自分の今考えていることや思っていることをうまく文章に書き表すことのできない児童への対応である。思いがあるにも関わらず文章に書くことができないので、そのような児童の内面を評価することが難しい。自分の思いを表現しやすいように工夫する必要がある。そのためには、文章で書く以外に、キーワードをつなげていくようなマッピング方式などが考えられる。長い文章を書くことが苦手な児童でも、短い言葉で表現するのであれば、書くことに対するハードルは低い。今回の教材ではマッピング方式についても実践し、命をテーマに自分が思いつくものをつなげていくなかで、自分の思いを表現しながら深めることができた。このことは、事前と事後で児童が書いた言葉が大きく変容したことから明らかである。

道徳的価値についての理解を深めていくためには、その教材に自分自身を重ねて感じられるかも大切である。実際にロールプレイに取り組む中で、自分ならどう考えるのか問い返しの発問も取りまぜながら問うことで、うわべだけの言葉ではなく、言葉の奥に隠されている本心を表現できるようにすることも重要と感じた。できることならば、その時のつぶやきやロールプレイなどを記録すると文章だけでなく多面的に評価できると思われる。

## 【各校での実践の記録】

### ◆実施学年（3年）

#### ◆評価を位置づけた授業実践の分析

##### ○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

- ・授業をする前に、「いのち」という言葉を聞いて思いうかんだことをマッピングの手法で書き出させた。すると、例として挙げた「まもる」「大切」「一つ」ということしか書けない児童が大半を占めた。
- ・「ヒキガエルとロバ」の学習の中で、「ロバを見送った後、アドルフたちはどんなことを話したでしょうか。」という中心発問についてワークシートに書かせたところ、ヒキガエルに石を投げたことを後悔する思いを書く児童もいる一方、「ロバはなぜヒキガエルに気づいたのかなあ。」としか書けていない児童も数名いた。
- ・後日、国語の「ちいちゃんとかげおくり」の事前学習として、絵本「えんぴつびな」を読み聞かせ、身近な人の戦争体験について話を聞いた。その中で、曾祖母が祖母をおぶって空襲を逃げ惑ったという話がでてきた。「ひいおばあちゃんがおばあちゃんを守ってくれたから、今の自分が生きている。」という思いを聞いて、そこから命についてももう少し考えてみようと呼びかけた。
- ・命あるものは人間だけではないこと、道徳で学習した「ヒキガエルとロバ」の「ロバ」は、命がけでヒキガエルの命を救ったのだということを確認し、身近で「命を助けた」「命を大事にした」という経験を出し合った。
- ・1学期に、毎日モンシロチョウの幼虫を世話したこと、ヤゴから脱皮したトンボを協力して逃げさせたこと、自分たちのまいた種に水をやって育てたことなど身近な体験と結びつけて考えることで、命についてやっと児童の心に伝わるものがあったと感じた。
- ・そこで、再度「いのち」についてマッピングを行った。すると、多くの児童が一度目より書くことができた。
- ・「つながり」「助け合い」「ありがたい」「植物」「動物」「友だち」「だいすき」「やさしさ」「自分」「しあわせ」「すばらしい」「感動」など多角的、多面的にとらえることができた。

##### ○成果と課題

- ・授業の事前と事後に「いのち」についてマッピングさせることで、児童の「いのち」に対する考えの広がりや深まりをキャッチすることができた。ただ、この手法は、毎回使えるものではない。
- ・評価を意識することで見えてきたものは、道徳の授業の在り方である。読み物教材を一時間完結で扱うことで評価につなげるのは難しい場合も多いのではないだろうか。児童の実体験を活かした多角的、多面的なアプローチが必要になってくると考える。

実践校名（ 富田林市立寺池台小学校 ）

## ◆実施学年（４年）

### ◆評価を位置づけた授業実践の分析

#### ○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

中心発問のワークシートの場面のワークシートと事前にとったワークシートから

- 全体の意見としては、ロバに共感し、アドルフの行為を反省した内容が多かった。
- 授業前の児童が書いた感想の中で、ヒキガエルが好きではないため、一生懸命に生きているとしても好きにはなれないというものがあつた。この児童は授業後のワークシートで、「小さな命なので大切にしなければならない。ヒキガエルのようなことに自分になっていけば・・・。」と自分におきかえて命の大切さを考えていた。このことから授業の前から生命尊重の道徳的価値について、４年生としては十分に持っていると考えた。
- ヒキガエルが苦手だと事前ワークシートで答えた児童 B は、本時においてアドルフの行動をふりかえり、ごめんねを言いたいという形で生命尊重の道徳的価値にせまっていた。
- ヒキガエルが苦手だと答えた児童 C は、「ロバはやさしくしていたのに、ぼくたちはカエルにいやなことをしていたんだ。」「カエルも命を持っているんだから、もっとやさしく見守ってあげればよかった。」と書いており、生命あるものを大切にす道徳的判断力を養うことができた考えられる。
- 不気味で好きじゃないと答えた児童 D は、「殺そうとしたことを反省し、一つひとつの命を大切にしていくことを話し合いながら帰ったと思う。」と書き、どんな生き物でも、もっと大切にしたいという道徳的実践に向けての考えを深めたと考えられる。

#### ○成果と課題

生命尊重の道徳的価値については、授業前に比べて道徳的価値についての考えを深めた児童がみられた。また、事前にワークシートを使いアンケートをしたことから、普段の考えをある程度つかむことができ、道徳の授業後に書いたワークシートから変容を見ることができた。しかし、別のクラスで授業した時に、導入でこの価値について発問すると、正直に言えない雰囲気があつた。

課題としては、授業中の発言や事前ワークシートからの変容をとらえたが、一つの授業のワークシートを比較するだけで、変容をとらえることは困難なように感じた。道徳の時間だけでなく、学校生活全体でとらえる必要があるのではなからうか。

## ◆実施学年（４年）

### ◆評価を位置づけた授業実践の分析

#### ○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

主発問である『ロバを見送ったあと、アドルフたちは、どんなことをはなしたのでしょうか。』を考えさせ、ワークシートに書かせた。年をとったロバが、歯を食いしばってヒキガエルをよけ小さな命を助けた姿と、アドルフたちの行動を比較することから、自分たち(アドルフたち)の行動の愚かさについて話す内容を想像させたが、「なぜロバはヒキガエルをふまなかったんだ。」「なんでよけたの？死んじゃうと思ったのに・・・」といった、アドルフたちの道徳的心情の変化を感じないままの感想を書く児童もいた。

全体交流ではほかの児童の感想を聞いたあと、アドルフたちの手から、石が足元に静かにすべり落ちたときにどんな気持ちになったのか、実際にロールプレイさせもう一度考えさせると、アドルフたちの道徳的心情の変化を感じることができ、「小さな命でも大切なんだ。」といった感想が増え、主題についてせまることができた。

感想の多くは、年老いたロバのように小さな命でも大切にしようとする態度や弱い者いじめの愚かさ、ヒキガエルに対する謝罪の念などであった。どの児童もアドルフの初めの行動や考え方は許せないと考えているようであった。

#### ○成果と課題

多くの児童が真剣にアドルフになりきって考えることができ、アドルフの行動は許せないという意見の児童もいた。しかし、アドルフになりきって考えることに抵抗を感じている児童もいた。

真剣に授業に臨む児童の中でも言葉に表すことが苦手な児童がいた。心の中で感じたことを素直に文字のできないので、ワークシートの中だけでそのような児童の内面は評価しにくいと感じた。そこが今後の課題と言える。

## ◆実施学年（4年）

### ◆評価を位置づけた授業実践の分析

#### ○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

##### Aさん

写真を見たときから「きもい。ライターでもやして殺す。虫眼鏡で焼く。投げる。」等の発言があった。虫に対して、気もち悪いものは、殺して良いという考えが強かった。しかし、お話を聞き、クラスの中で交流を進める中で、生き物の命も人の命も同じで大切にしないといけないという考えに変容したことがワークシートから読みとることができた。

##### Bさん

写真を見て思ったことでは、「気もち悪い」「家の中に入ってきたらびっくりする。」という意見でヒキガエルに対して拒否的であったが、クラスでの交流を通して、「ロバを見習おう」という意見に共感し、気もち悪いものを排除するのではなく、命を大切にしようと考えの変容が見られた。

全体的に、写真をみた瞬間「わあ、気もち悪～」「毒ありそう」「こんなんおったら殺す」「めっちゃ大きい」という意見が広がった。その容姿にだれもが拒絶感を示していた。その後、ヒキガエルとロバの話を読み、交流を進めていった。石を投げるときの気持ちでは子どもならではともいえる虫に対する残虐な発想もたくさん出た。そのうえで、アドルフの手から石がすべり落ちていったときの衝撃感を子どもたちと共有し、中心発問へとつなげた。

中心発問では「後悔」「情けなさ」「尊敬」「謝罪」「改心」などが出た。そして、最終的には「虫も人も同じ命。大切にしないといけない」「見た目でいじめるのはおかしい。自分もそうやっていじめられるかもしれないから、そんなことをしないようにしたい。」と言う意見に共感が集まった。

命の大切さに焦点が集まった児童が多かったが、「ロバはすごい。」と人ごとのように終わってしまった児童も数名いたため、その点は課題が残った。

## ◆参考資料

- ・ヒキガエルの写真を最初に見せた。